

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ゆい	代表者	岩崎 光登志	法人・事業所の特徴	弊社は創業以来、地域に根差した介護サービスの提供を続けています。利用者個人にあったサービス内容を提供することに力を入れています。週間プランにおいて、細かい利用時間、送迎時間の設定、宿泊時間の調整、自宅で過ごすための積極的な訪問の調整を心がけています。専門的な医療を受けられるように、協力医療機関と連携を密にとり、訪問リハビリ等を継続して行って頂いております。
事業所名	小規模多機能施設 めぐみ	管理者	八代 まり		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	個人ファイルに各利用者のケアプラン・介護計画書をファイリングし、職員がいつでも目標を確認できるようにする。月1回のミーティング時に各利用者の目標の周知・見直しを行う。	個別のファイリングを実施できてはいるが、状況変化のある利用者以外についての話し合いや目標の確認を職員全員で行うことができなかった。		変化のある方に限らず、利用者全員についてケアプラン・介護計画書を職員全員で確認、見直しできる体制をつくる。そのために、新しく導入した介護ソフトの情報共有機能の活用ができるように使い方を確認し周知する。
B. 事業所のしつらえ・環境	定期的に施設内の整理・清掃を行い、環境整備に努める。	玄関を中心に施設内を整理整頓して、清潔で風通しの良いイメージを持ってもらえるようにした。また、毎朝出勤後の10分間、職員全員で一斉に掃除を行い換気と消毒を徹底するようにした。		居室担当を決めて、清潔で明るい環境を維持していく。毎朝の掃除は引き続き継続していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域とのかかわりを広げる為にSNS等を活用し施設の認知度を高める。	コロナ禍のため地域の行事には参加できなかった。また、SNS等の活用は同意書の作成に時間がかかったこともあり遅れているが、今年度中には実現する予定。		個人情報の取扱いに注意しながらSNSを活用して施設をもっと広く地域の方々に知ってもらう。

D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	本人の以前の生活の様子や現在の生活リズムを把握するため、本人了承のもと、ご家族や地域の方々に声を掛けていく。	コロナ禍において利用者の生活する地域の行事に参加することや、地域の住民を呼ぶことができなかった。		地域のイベント事を回覧板やホームページで把握し、コロナの状況をみながらできる範囲で関わりをもつようにしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で、コロナ禍においてもご家族や地域の方々が参加できるイベント等を企画・提案していく。	平成 29 年の運営推進会議で施設周囲につき「より親しみのもてるしつらえ」をとのご意見をいただいたことから、オープンガーデンに継続して取り組んでいる。引き続きオープンガーデンスペースで季節ごとの花や野菜を育てた。居室から見える位置にも花壇を置くようにし、野菜の収穫を利用者で行ったりした。		引き続き、オープンガーデンに取り組み、来年 4 月 5 月開催の「港北オープンガーデン」に参加する。 地域の方や包括と連携しながら、地域の方々も参加できるイベント等を企画・提案していく。
F. 事業所の防災・災害対策	引き続き、防災訓練を地域・消防署と共に実施していく。	コロナ禍で防災訓練を一緒にできなかったが地域の防犯パトロールには参加できた。また、災害時の非常食、水、毛布などは備蓄している。		コロナの状況をみながら施設の防災訓練に地域の方にも参加していただけるように検討していく。災害時の事業継続計画 (BCP) 策定に取り組む。